

# 「音楽大好き！」

～音楽のよさや美しさを感じたり表現したりしよう～

### 主題設定の理由

子どもたち一人ひとりの主体的な音楽活動を支えているのは、「楽しく音楽活動をしようとする」「進んで音楽活動をしようとする」「創造的な音楽活動をしようとする」などの心の働きである。活動の結果得られる成就感や満足感をささえるのもこの心の働きである。これらの心の働きを高めるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培うことで、子どもたちは「できた」「わかった」という実感とともに、より確かな音楽の力を確実に身につけていくことができる。そして、これらの学習活動の積み重ねにより、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性が育ち、基礎的な能力が培われやがて豊かな情操が養われていくと考える。

「音楽大好き！」は、すべての音楽活動を支え、生涯にわたって音楽を愛好する心情につながる最も大切にすべき心の働きである。また、発達段階に応じて設定された目標達成にあたっては、課題を主体的に解決しようとするなど、この「心の働き」に支えられてはじめて可能になることから本主題を設定した。

「音楽的な感受や表現の工夫」の資質や能力なくして、「表現の技能」「鑑賞の能力」の資質や能力は十分育たないのである。しかも、「音楽的な感受や表現の工夫」は表現領域（歌唱・器楽・創作）と鑑賞領域（鑑賞）の双方に共通した観点である。「表現の技能」「鑑賞の能力」につながる資質や能力の育ちを見る観点であるから、「音楽的な感受や表現の工夫」を中核とし、表現及び鑑賞の指導の関連をもたせることができるのである。したがって音楽大好きな子どもにするには、音楽的な感受や表現の工夫を見取る活動を展開していく必要があると考える。

## I 研究の内容

### 1 研究の具体的内容

#### (1) 教材研究

- ・音楽科としておさえるべき基礎・基本の分析
- ・教材選択の視点の明確化（この教材で、子どもたちにどんな力をつけさせたいか）
- ・講習会（創作活動・歌唱指導）

#### (2) 授業研究

- ・子ども達がより主体的・創造的に表現活動ができる学習過程の工夫
- ・音楽のよさや美しさを感じたり表現したりできるような指導の工夫（表現の技能と鑑賞の能力の指導の関連性）
- ・指導と一体となる評価のあり方と実践

#### (3) 明日の授業づくりと教師の技能向上のために

- ・平成21年度東山梨小中学校音楽発表会での合唱実践
- ・教職員音楽発表会出演（合唱）

## 2 研究の方法

- (1) 教協研究日 (10回のうち授業研究日2回)
- ・塩山北中学校 平井祥子先生(9月)
  - ・塩山南小学校 武井 浩先生(2月)
- (2) 外部講師による講習会
- ・古屋幸雄先生「創作活動の指導に関する工夫」(6月)
  - ・富澤 裕先生「コスモス」を使った歌唱指導実技講習(9月)

## II 成果と課題

### 1 成果

領域の2回の研究授業を通して、課題の解決の糸口を見いだせたことは大きな成果となった。第1回の中学校での実践「音の重なりを生かして歌唱表現を工夫しよう」では、声部の持つ役割とそれがもたらす表現効果を感じ取る活動をとおして、楽曲にふさわしい表現を工夫して歌唱につなげることができた。主旋律のみの演奏と対旋律および各声部が加わった演奏を聞き比べてその響きや表現効果を味わうことや、和音の響きに注意してその効果について感じ取らせることは、何気なく歌っている曲のひとつひとつに意味と役割が込められていることを生徒達に感じ取らせることができた。第2回の小学校での実践「心をこめて演奏しよう」では、合奏と合唱を効果的に組み合わせる授業過程の工夫により、子どもたちが曲想を感じ取って、表情豊かに歌ったり、演奏したりする姿が見られた。どちらの授業も、部会員全体で検討し、討議を深める中で、授業過程の工夫や改善が行われ、大きな成果を得ることとなった。また昨年度の反省を受けて、今年度はじめて中学校が9月に研究授業を実施し、県教研、全国教研までつなげることができた。これは部会内研究の深まりと有効さを示すよい指針となった。

講習会は、今回の指導要領改訂で重点のひとつにあげられている創作活動と、子ども達の表現の技能を向上させるための歌唱指導についておこなった。外部講師ではないが、部会の指導助言者である荻原春菜先生による合唱の実技講習も、知識だけでなく教師自身が技能面で吸収することがたくさんあり、また刺激を受けることができた。

### 2 課題

課題としては、1時間の授業の中で、感受することから効果的に表現に直接結びつけるためにはどうしたらよいのか、引き続きをいろいろな方面から追求していくことが研究の深まりにつながるかの確認がされた。今後もさらに、表現の技能と鑑賞の能力を関連づけ、さらに深まりのある実践を限られた授業時数の中でいかに実践を積み重ねていくか、また音楽に親しむ環境づくりをどう作っていくのかを研究していきたい。

## III 成果物

### 指導案

- 「音の重なりを生かして表現を工夫しよう」 (中学校 第2学年)  
塩山北中学校 平井祥子先生
- 「音楽表現の豊かさや美しさを感じ取ろう」 (小学校 第5学年)  
塩山南小学校 武井 浩先生

(部長 小林由紀子)